

ご卒業おめでとうございます！



明日の卒業の日を、どのような心持ちで迎えるのでしょうか。この3年間の学習や生活を振り返って、何を感じているのでしょうか。3年生の皆さんに届ける、最後の『人権教育だより』です。高校生活最後の「人権学習」を2月21日におこないましたので、感想等を紹介します。



◎人権に関するホームルーム活動

『結婚差別について知り、考える～話してくれてありがとう～』

「まだこんな差別があるのか」。多くの人の率直な感想だったようです。しかし、中には実際に「差別の現実」に直面したことがあると、みずからの経験を綴ってくれた人もいました。残念ながら、さまざまな差別が現実社会には残存しています。差別を断ち切り、差別を許さない気持ちを、強く持ち続けてほしいです。

＜皆さんの感想より＞

- ① 大学生の手記を読んで、まだこんな差別をする人がいるんだと正直おどろきました。昔から部落差別について学んできたはずなのに、現代にも起きているということは、どこかで自分には関係ないと線をひいてしまっている人がいるということではないかと考えました。そうならないためにも、まずは自分がそういった場面に出会ったとき、「だめ」と口に出して行動できる人間にならなければならないとも感じました。将来、自分に子どもができれば、幼いうちから人権教育をきちんとおこない、差別のない未来をつかってほしいし、歩んでほしいと思いました。
- ② 今日の部落差別や結婚差別について学んだことを通して、一人一人が差別について正しい知識で、差別について学び、きちんと理解することが大切だと感じました。大人が差別を続けると、子どもも差別を続けるという可能性があると思うから、どこかで正しい知識を理解し、差別をなくすことが大切だと思いました。これからの社会で大切だと思うことは、きちんとした人権教育をすることだと考えます。そうすることで、差別について理解することができ、差別がなくなっていくと思いました。
- ③ 自分が住んでいる場所のせいで、結婚が無くなってしまうというのは、想像以上にとても悲しいことだと思います。差別は人生を狂わすもので、絶対にあってはいけないことだと思いました。



◎人権に関する講話

『私が歩んできた道～差別の実態に深く学ぶ～』

「結婚差別」の学習と同じ日に、おおだふれあい会館の中島シゲ子さまからご講話いただきました。中島さまは、自らの被差別の経験や島根県内での実際の出来事を紹介され、辛く壮絶な差別の実態を知らしめて下さいました。ご自身の体験の中で希望にもなったのが、「人は頭じゃないよ、心だよ」という恩師の言葉だったそうです。人の心にふれたり、人に心を動かされた経験が、私たちのあり方・生き方に強く影響するのだと思います。代表生徒が「自分に家族ができれば、中島先生のお話を心に留めながら、差別の悲しさと差別をしないことを伝えていきたい」と述べてくれました。



邇摩高校では、皆さんの学校生活が豊かなものになるよう、あるいは、皆さんがこれから生きていく中での「お守り」になるよう、先生方と試行錯誤しながら人権教育が計画され、実施されてきました。

《人権に関するホームルーム活動》

学年	学期	学習テーマ・内容
1	1	『仲間づくりとコミュニケーション～形があったよ～』
	2	『インターネットやSNSでのコミュニケーション』
	3	『自己理解と他者理解～短所を長所に・ジョハリの窓～』
2	1	『部落差別の歴史と現実から学ぶ①～解放令から学ぶ～』
	2	『部落差別の歴史と現実から学ぶ②～水平社宣言から学ぶ～』
	3	『部落差別の歴史と現実から学ぶ③～教科書無償化運動～』
3	1	『就職差別について知り、考える』
	2	『自他尊重の表現方法～コミュニケーション技能の獲得～』
	3	『結婚差別について知り、考える』

学期に1度のホームルーム活動で取り組んだテーマを一覧にしてみました。これに限らず、あらゆる場面で「自分の大切さ」や「相手の大切さ」について学んできたと思います。皆さんと一緒に学習するなかで、個別の人権課題に興味を持って考えを深めたり、権利意識に目覚めて行動したりする姿を目にすることができたのは、とても嬉しく頼もしくも感じる場面でした。

ぜひ、この邇摩高校で学んだことを「お守り」に、これからも自らの人権感覚を磨き続けていってください。そして、どうか幸せに、これからの人生を切り拓いていって下さいね！

* 3年間、人権教育だよりをお読みいただきありがとうございました！ この便りが、皆さんが「人権」について考えるきっかけとなりましたら幸いです。 <令和5年度 人権教育推進スタッフ：森脇・山岡・小村・青木・小中>

